

日本ソーイング技術研究協会理事長

2018年度年頭挨拶

あけましておめでとうございます。

皆さまには穏やかで希望に満ちた新年をお迎いの事とお慶び申し上げます。

振り返ってみますと昨年は天皇陛下のお言葉を受けて約200年ぶりとなる生前退位が決定された年でもありました。その一方小池旋風が吹き荒れた結果野党の崩壊が進み結果としての自由民主党一強体制が強まることになりました。経済に目を転じてみると2011年に始まったと言われる景気拡大が高度経済成長期の「いざなぎ景気」を越え戦後二番目の長さになると言われていますが生活実感としての豊かさは感じられないというのが多くの国民の思いではないでしょうか。世界の情勢に目を転じてみるとこれまでの常識からはその言動を予測することができないトランプ政権が発足し、その後も蛇行を重ねています。一方北朝鮮の核実験・ミサイル発射などによる挑発の続発、中国習近平国家主席の「一帯一路」政策による攻勢や東アジア諸国への軍事的挑発もより強くなっていくとみられます。

私たちの新しい年の歩みもこれらの事と無関係に進むわけではなく様々な形での影響を受けて進んで行く事にはなるでしょう。しかし、そのような緊張を強いられる環境下にある事は事実ですが、我が国のさまざまな分野での活動の大きな流れは絶える事はありません。

私ども日本ソーイング技術研究協会も同様です。

従前から継続して行ってきました共同購入・共同購買については順調に取扱高が伸びております。その過程で会員の皆さまへのメリットも生まれそれを還元してゆくという成果も生み出すことができています。本年はさらにその規模・内容ともに充実させてゆく所存です。関係する皆さまの一層のご理解・ご協力を心からお願いする次第です。

また、昨年から新たに活動を開始する事ができた外国人技能実習生に対する自動車シート縫製の「技能実習評価試験」ですが、昨年1月から評価試験を開始し一年間で417人の合格者が生まれています。本年はさらに多くの実習生が受検すると見込んでいます。実習生の皆さんには一年間の実習で身に付けた成果を試験で証明し、次の2年の実習生活を自分のものにしていただくよう期待しています。また、受け入れ機関や実習先企業の皆さまは技能実習制度の持つ意義をしっかりと理解されて実習生たちへの指導、教育に取り組んでいただきたいと思えます。大切なのは彼らを仲間としてとらえ技能習得を通じて一人前の企業人に成長させるという経営者としての心構えです。技能実習に関する新法の「技能実習は、労働力の需給の調整の手段として行われてはならない」ということを肝に銘じて取り組んでいただきたいと願います。そしてその事が技能実習評価試験の合格率の向上にもつながるのだという事を申し加えたいと思えます。

また、入国に際して外国人技能実習機構の認定を受けた技能実習計画を着実に履行しその成果を上げるには受け入れ企業における指導体制の整備が不可欠です。技能検定3級、2級合格者による指導ができる企業か否かが今後の技能実習計画の認定の際の鍵になっていくと思われれます。その意味からも、そして、自動車シート縫製業界全体の資質の向上という観点からも、本年も昨年にもまして日本人で指導員になるべき皆さんの技能検定試験への積極的なチャレンジを併せてお願いして新年のご挨拶といたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成30年 1月

日本ソーイング技術研究協会

理事長 御園 慎一郎